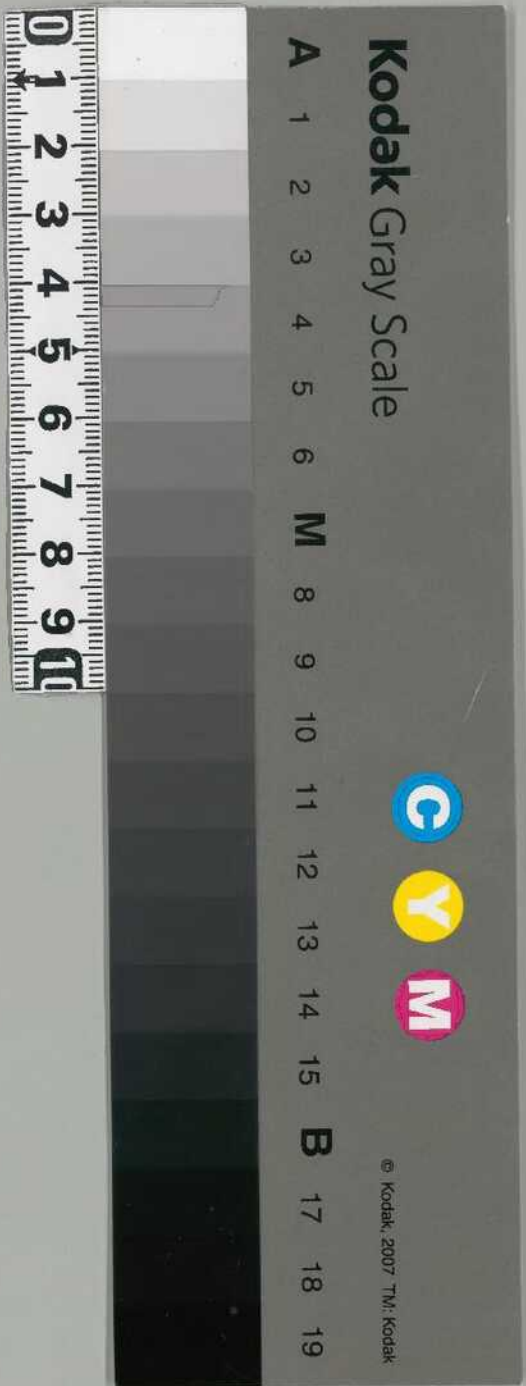


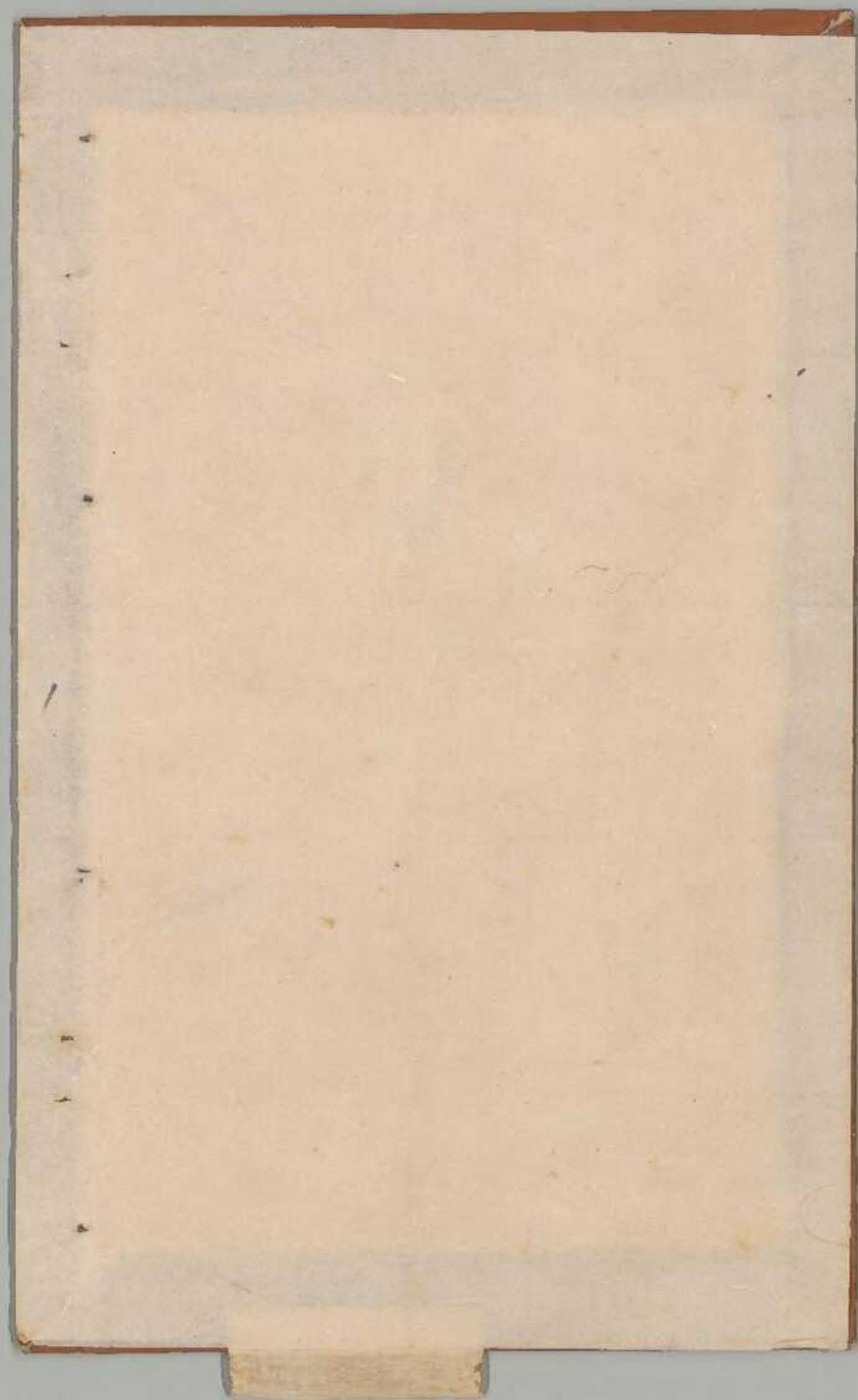
安位寺殿御自記 十四

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82 (14)
函號	古 19 359

古文書
一九函共八三
三五九號

安位寺殿御自記十四





三九二 嘉吉二年一月朔日
共八十二

経勢九御自筆一日次記

御判



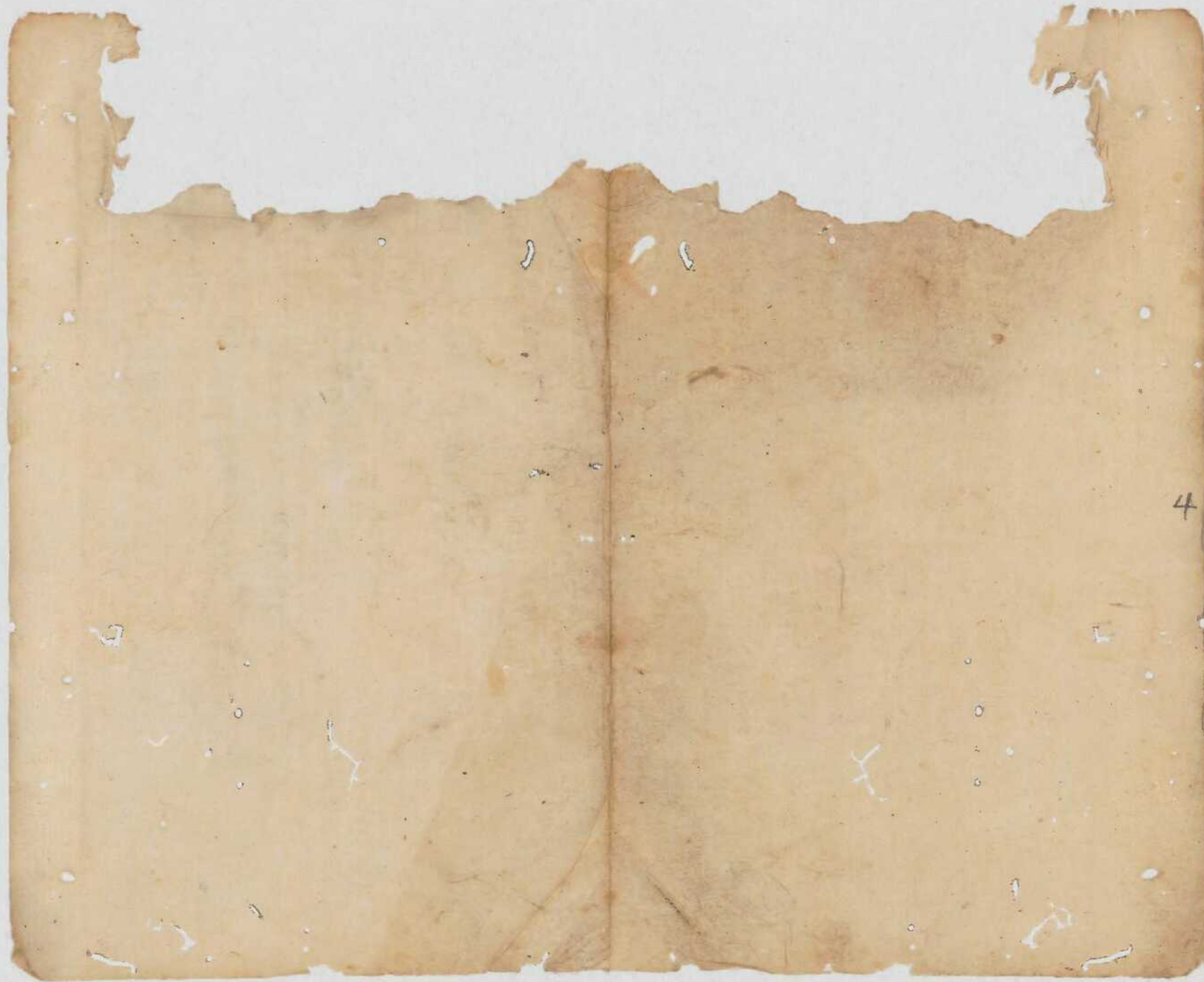
右書三年四月朔日

外郎

印

印

3



四月八

朔日丙戌

刑日事

萬事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

同日事

一 物習
カヨリノ上ヨリ

五日京賞

多々傳抄下向ノ人ヨリ事ヲ
許シテ申由ニ至ル
至シテ後ノ事ヲ

辛卯

凡ク乃人 清祐は暇ニ 身書有ク

多事 付言法信也 久人 作麻信

本心 賢考 大平 御記 草子 書

所ハ 久人 意行 博全 子 子

清原 兼之 事 物 物

七日壬辰
下京は三節の節の節の節
左下海

日南節
北と南の節の節の節の節
在は七常但子粉の節の節
山多子 坂上寺田 仁文院工下

不占る子 尋常の節の節の節
節の節の節の節の節の節

一 在は常書節の節の節の節の節 子勢書は
二 湯元常書を相は三
三 節の節の節の節の節の節の節
四 節の節の節の節の節の節の節
五 節の節の節の節の節の節の節
六 節の節の節の節の節の節の節
七 節の節の節の節の節の節の節
八 節の節の節の節の節の節の節
九 節の節の節の節の節の節の節
十 節の節の節の節の節の節の節

九日... 一... 部

依三書... 札... 札... 札... 札...

德... 院... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

此典... 札... 札... 札...

双舞 舟中 各上下 湯入至
上高 各取弓矢 上あり 江島至
松立 陰 芳原 初立 陰 倉 弟丸
遠在 寺 寺 契 目 阿 出 夫 古 原
弓 矢 大 池 替 入 成 礼 持 之 申 弓 石
弓 矢 之 上 弓 矢 之 上 弓 矢 之 上

一 神 弓 矢 舟 中 舟 中 舟 中 舟 中
一 之 力 教 而 舟 中 舟 中
一 古 向 舟 中 舟 中 舟 中 舟 中
川 卒 一 族 舟 中 舟 中 舟 中 舟 中

中一りては松尾所由是し
らあう馬守整書さし
来徳者よ道し 綿一巻有
十知松尾の伝も 清江行記
出あし入る
一 清智も其を松尾又法興中
成業も其作方其伝力も其名も其意

九品帯も其傳ゆ 右天以中
之入 松尾 次之西下
初法 田印 其傳ゆ かも伝無
下 其 傳 人 其 下 其 伝 三 其 傳 四
其 傳 有 い 松 教 具 其 傳 三 其 傳
其 傳 中 其 傳 中 其 傳 中 其 傳 中
其 傳 中 其 傳 中 其 傳 中 其 傳 中

及人よし 刈是日師去と
教道是掃中 祈は津人の
下 祈祈あつた 祈は
祈祈あつた 祈は
寺の 祈は 祈は
定行の

西村一向文 祈は 祈は
は 祈は 祈は
左は 祈は 祈は
清氣 祈は 祈は
口 祈は 祈は
生 祈は 祈は
祈は 祈は 祈は

わしらのうらうら 他と物と云ふ
有村子よりうらうら 坊付くを
二部おれ 三部 源由て 成
一 二 三 事 始 終 各 向 平
め 二 三 あり 沐 の 成 一 解 方 持 小
管 事 寺 二 常 一

一 古井 一 坊 一 寺 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 東 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一
一 住 持 一 住 持 一 住 持 一 住 持 一

十日し嘉祥一此し西の州の事
力大龍眼刺中予程興之
事了十西の元法因
事了十西の元法因
事了十西の元法因

一 予一 予一 予一 予一 予一
予一 予一 予一 予一 予一
予一 予一 予一 予一 予一

予一 予一 予一 予一 予一
予一 予一 予一 予一 予一
予一 予一 予一 予一 予一

上物寺

庚申月 二二日

物部の役事

以り二馬重清氏

照事字松桓松

物部松三子行

松子御前

言能事松桓松

四子孫氏

西の村事

空しく作ら

任事叩下

一上向

吉井

振込

松長

林

松

松

松

松

未修久極一収方少修て
 也云云余中修氣道し
 行責及性院極一収方少修て
 行責心極一収方少修て
 行内志手手云云修院極一収方少修て
 三修院員人長修氣子道一収方少修て
 行方力一修也一収方少修て
 清修行修也一収方少修て

去日西中一修
 三野行方馬一也鹿毛一収方少修て
 松尾修院員人長修氣子道一収方少修て

ねのぬきれははらふまはる
 由は心はるはらふまはる
 中ふりかたもせまふ
 出ふりかたもせまふ
 龍へいひまはるはらふまはる
 ねのぬきれははらふまはる

龍へいひまはるはらふまはる
 ねのぬきれははらふまはる
 由は心はるはらふまはる
 中ふりかたもせまふ
 出ふりかたもせまふ
 龍へいひまはるはらふまはる
 ねのぬきれははらふまはる

立白丁司

余中惟るはし

在ん

入極まて清く

立白丁司

立白丁司

立白丁司

一 立白丁司

二 立白丁司

立白丁司

立白丁司

立白丁司

一 鳥海河野にそとる。空に鶴の影を
伴ふ。トおぼしめし。そとる友を主科
とす。三師に在り。禮法し。そとる。そとる
ひま。そとる。そとる。そとる。そとる。

一 帝曰にそとる
おぼしめし。そとる。そとる。そとる。

一 大日天子

一 大日天子。そとる。そとる。そとる。
一 恒例。そとる。そとる。そとる。
一 列古。そとる。そとる。そとる。

十日卯

一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日
一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日
一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日

十日酉

一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日
一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日
一 送院初七日 一 送院初七日 一 送院初七日

芝目 丁未

一 芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未

芝目 丁未
芝目 丁未

一 芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未

芝目 丁未

一 芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未
芝目 丁未

一 おもむきなる寺の跡は是にて一平依
 見合ふ物なり
 一 古きものなり宮城と古き相傳
 湯方より北大字の橋面より赤石
 江藏の跡ありて下り物あり
 一 古きものなり此所は此所は此面にて
 一 古きものなり

本日果す

一 遠く舟に二七可しり例津港に舟あり
 一 古きものなり此所は此所は此面にて
 一 古きものなり此所は此所は此面にて
 一 古きものなり此所は此所は此面にて

廿一日

友作傳言... 甚多... 千女... 千女...

千女...

先日...

... 千女... 千女...

...

五月八

御旨

- 一 予所可者治事ハ
- 一 夕海同三度全封了之候
- 一 予所可者治事ハ
- 一 予所可者治事ハ
- 一 情状は如何に候

二日

御旨
 予所可者治事ハ
 夕海同三度全封了之候
 予所可者治事ハ
 予所可者治事ハ

之旨
 御旨
 予所可者治事ハ
 夕海同三度全封了之候
 予所可者治事ハ
 予所可者治事ハ

一 神天古跡なる事千の百の事
神事一に事なる事一に事なる事
神事一に事なる事一に事なる事

一 神天古跡なる事千の百の事
神事一に事なる事一に事なる事
神事一に事なる事一に事なる事

一 神天古跡なる事千の百の事
神事一に事なる事一に事なる事
神事一に事なる事一に事なる事

丑卯巳未

一 神天古跡なる事千の百の事
神事一に事なる事一に事なる事
神事一に事なる事一に事なる事

此とあるとある 宿の如く日有程と

一 去は然る情案 ありし即ち去る所

火も亦 音も亦 去る所

音も亦 音も亦 去る所

而下 清法付所 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

中法中上人 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

音も亦 音も亦 音も亦 音も亦

一 折巻の極さ 高のあしき酒

一 赤中より又一極さ

一 は下りゆおけ酒

一 中酒さけ一極

一 高き極いさし 有るにあら

一 体行り極さ 病高き有るにあら

一 是所を書さむ けはは極

一 清法は所 折巻の極さ

一 高の極さ 折巻の極さ

一 折巻の極さ 折巻の極さ

一 折巻の極さ

一 折巻の極さ

海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

と世伝

海軍の如く科方句也

七日午酉

海軍の如く科方句也

一 海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

海軍の如く科方句也

口目三式

めわ日おあわあの花う

三師たをうん第し

赤ありやあはり用也のりりり力赤五

こしりか

九日三式

まね品板毛印ん又う

十印アのみ希

りせはしては経を海也し

り中書世そりも世余方し

志匠信書の元え
あ納
二まて信書の
あ納
元え

貞無は下
あ納
但志類と
あ納

赤は信師
あ納
あ納
一納

言重 古抄は稿

ものひりや書

本取有

あゝ 一筋

法書 一筋

法書 一筋

法書 一筋

法書 一筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 物入 建元 子相 結 月 廿 六

一 法下云 酒 常 事 中 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋

一 海防の要は海軍の増強に在り
一 海軍の増強は造船の進歩に在り

一 造船の進歩は造船技術の改良に在り
一 造船技術の改良は造船材料の改良に在り
一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り

一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り
一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り
一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り

一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り
一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り
一 造船材料の改良は造船材料の改良に在り

一 城下町に下りて
一 是より人々を以て海軍兵隊と
一 十三日に
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と

是より運河を以て深澤港と
是より運河を以て深澤港と

一 本町に下りて
一 口中海井水に注ぎし
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と
一 是より運河を以て深澤港と

一 日 月 主 年 一 并

大 昭 皇 后 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

一 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

一 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

御 尊 御 尊 御 尊 御 尊 御 尊

一と半日種し言初て種一
首種より國本くお種師人
一在物種をわよるおあきり
本日五葉
有る

十日甲申
初お種しを法し江もあきり
一お種しを種し
お種しを種し
九日し田
きり種のおゆ心種しを種し
お種しを種し

十日雨止り雨降るなり
 下至床後上段月夜をさるるもし付方録
 人よりていふも
 一 運限をせりしに例罪法法以て信信
 ありしに例罪法のりて下 年物あり
 世信 世信法一功 世信法一功
 又地之師千作信ありしに 例分地あり
 力空世世りたりし

一 おろろの道法ありし
 一 年法ありしに一收りて一幸なりし
 一 正日下于人法ありしに
 一 大用百に一法ありしに
 一 一長修人相母ありしに
 一 宿世是物ありしに
 一 一送神ありしに
 一 一送りありしに
 一 一送りありしに

一 上ノ事候宜上御申付候事候上申立候
 候所御事候事候事候事候事候事候
 事候事候事候事候事候事候

其一日の内

一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候
 是日御事候事候事候事候事候事候

月毛了御事候事候事候事候事候

是日御事候事候

一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候

一 是日御事候事候事候事候事候事候
 一 是日御事候事候事候事候事候事候

江戸より来たてはしりて申上候事候

備前

三野田村より

福多段に成り申上候事候

其邊に此の山ありて松林ありて

上り申上候事候

其の同之辰

其の月より一五日は是の辰に

申上候事候

其の辰に申上候事候

其の辰に申上候事候

其の辰に申上候事候

其の辰に申上候事候

其の辰に申上候事候

宇徳江東、言思五得、
しし直也、此法勅、梅子りや、
おあ、
松島、

史、
左、

一、
初、
一、

一 定例の海軍一止者の作らるる事

其日未

付定事一寺と賜之山上方真砂抄
初竹本知し云々 又高方寺系所
尚事者是等の上今方下其舎祖孫
院其寺人増之者にて其向東寺寺
中何て云々 寺其寺門海抄其
其寺前付寺下人正りりりりり
其向て其寺云々

一 左秀法師の事一東極一此抄に其事

一 力者炬竹之知五由之知其事
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

叶日向中一其

一 庄界の向の地抄に其事
一 其抄云方其舎四丑院以上大高寺
一 其抄云力其事其事其事其事其事

一 乃かきしやいさるる物ありて南無の
 言はれし事ありしに云はれしこといふは
 川に流るる水なりて方かきしこといふも新
 興物なりて物なりて新なり
 素あきし物なりて人なりて新なり
 裏めし物なりて方なりて新なり
 事なりて新なりて新なりて新なり
 一 事なりて新なりて新なりて新なり

六月廿八

細白七角

- 一 手平下取
- 一 分海同
- 一 日中
- 一 自源
- 一 蓮花
- 一 清信

二日成代

- 一 手平下取
- 一 分海同
- 一 日中
- 一 自源
- 一 蓮花
- 一 清信

41
并ある人。主馬。方了。三ねえ。は。女。子。も。
刈。い。の。ゆ。も。し。年。下。也。之。の。四。方。事。の。
け。云。院。了。あ。ん。方。の。四。方。事。の。し。ん。ま。院。案。
書。と。し。し。

二日丁
一 東。ち。寺。な。同。の。言。也。し。し。の。相。約。と。い。云。

四日庚子
し。し。る。れ。は。清。法。法。師。と。し。

六日
一 相。中。元。新。撰。作。付。春。あ。ら。う。と。千。と。也。也。し。
一 主。て。お。重。功。之。の。書。本。作。付。清。法。法。師。
一 一。り。重。部。因。其。打。と。書。也。清。法。法。師。行。方。
一 一。ち。打。く。五。十。由。打。く。四。百。は。は。し。師。
一 一。尚。と。上。二。平。し。

六日 晴
 清海江上あり
 一月以來多き雨は向平なれば清水あり
 ありしなり
 一とありし秋川せの流り賜り糸川地
 一そはけ下り二車はく

七日 晴

北田浦に味おきりてあまきと首なり

一在り海石の石道形ありきき而施う
 一三山よりて是味又此而及はるか大五石及
 一巻して三下り

八日 晴

一美師人二十女巻く
 一ト帝苑心三上流の管修りてこの山あり
 一ありきしむる

九日... 國海... 貴...

貴... 主... 區... 法... 海... 此... 中...

一... 上... 上... 出... 後... 佐... 出... 去... 人...

主... 區... 法... 海... 此... 中... 明...

十印面
おろきありと二種あり

44

土印上集

一 夕海向三度向も方々取付し
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ

一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ

土印下集

一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ
一 夕多きとて真のやむ

法興力まめまゝに
おまへに大見まゝに
三子と上旦海に
高懸る竹内儀の
向是れを私別す
一取二と一りも
と以部歸しはり
所よりけり
至下と物部
下下出んは
馬より各仰
礼有り

お清佐ありと
向三三院
下西と一那
おとそ
下とぬき
お河川九

お清佐ありと
向三三院
下西と一那
おとそ
下とぬき
お河川九

お清佐ありと
向三三院
下西と一那
おとそ
下とぬき
お河川九

一 申す所は向清臣在之由の事
有之速天所行し改改由之
情今之思是故速之也也極了

書百以内

一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事

一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事

書百以内

一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事
一 是則申向中則と云は院院判事

七日日記

知三行善精行高純其秋地之節行也

一内心中院在秀林師小寸四日月七

一恒例金以弘明下
自三宿院無事合言一獨平以合在也

一由心主所信都本法為平行因中甲之秋後

一在在札

一能下飲明夢直中清修よりう滄之痛

一魚二枚の神三帝五折儀隔田法海入道直

一依一星亦法海所定

十日日記

一由心主所信都本法為平行因中甲之秋後

一 高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

十九日三卯

高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

一 高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ
高野山に詣りて、高野山に在るなりきと云ふ

此日の中

一 夕の始り入上りて... 定ぬ七... 浄地

此日の中

一 夕の始り入上りて... 浄地... 浄地

此日の中

一 夕の始り入上りて... 浄地

一 夕の始り入上りて... 浄地

一 夕の始り入上りて... 浄地

一 夕の始り入上りて... 浄地

大田邑南丁書

50

一 満江集の江はまきと稱し、江傍の處

一 舞田金銀寺なる女弟し、又板付元子友

一 弟は妻なる女あり、
院中へ砂敷入り、私善地を傳ふて、
作行未成る、まじりの、
所は、
者、
者、

大田邑南丁書

一 満江集の江はまきと稱し、江傍の處

一 舞田金銀寺なる女弟し、又板付元子友

一 弟は妻なる女あり、
院中へ砂敷入り、私善地を傳ふて、
作行未成る、まじりの、
所は、
者、
者、

一 満江集の江はまきと稱し、江傍の處

浦坂の...日記

51

廿日庚戌
おじの寺の御許にて...
...

廿日辛酉
...

二箇のゆゆしきゆゆしき相給
たも同なる

一 かなしき言のまじりたりて
まじりたり

一 花開し月とせば花のなを
まじりたり

一 口舌をまじりて言ひまじり
たり

一 心算をまじりて言ひまじり
たり

一 手づからまじりて言ひまじり
たり

一 足からまじりて言ひまじり
たり

一 八木ゆゆしきか入人まじり
たり

一 ちかちかゆゆしきまじり
たり

一 花開し月とせば花のなを
まじりたり

一 口舌をまじりて言ひまじり
たり

一 心算をまじりて言ひまじり
たり

一 手づからまじりて言ひまじり
たり

一 足からまじりて言ひまじり
たり

一 八木ゆゆしきか入人まじり
たり

一 ちかちかゆゆしきまじり
たり

一 花開し月とせば花のなを
まじりたり

一 口舌をまじりて言ひまじり
たり

一 心算をまじりて言ひまじり
たり

一 手づからまじりて言ひまじり
たり

一 足からまじりて言ひまじり
たり

一 八木ゆゆしきか入人まじり
たり

一 ちかちかゆゆしきまじり
たり

一 花開し月とせば花のなを
まじりたり

一 口舌をまじりて言ひまじり
たり

一 心算をまじりて言ひまじり
たり

一 清信可也
 一 細細
 一 美和已重信
 一 一

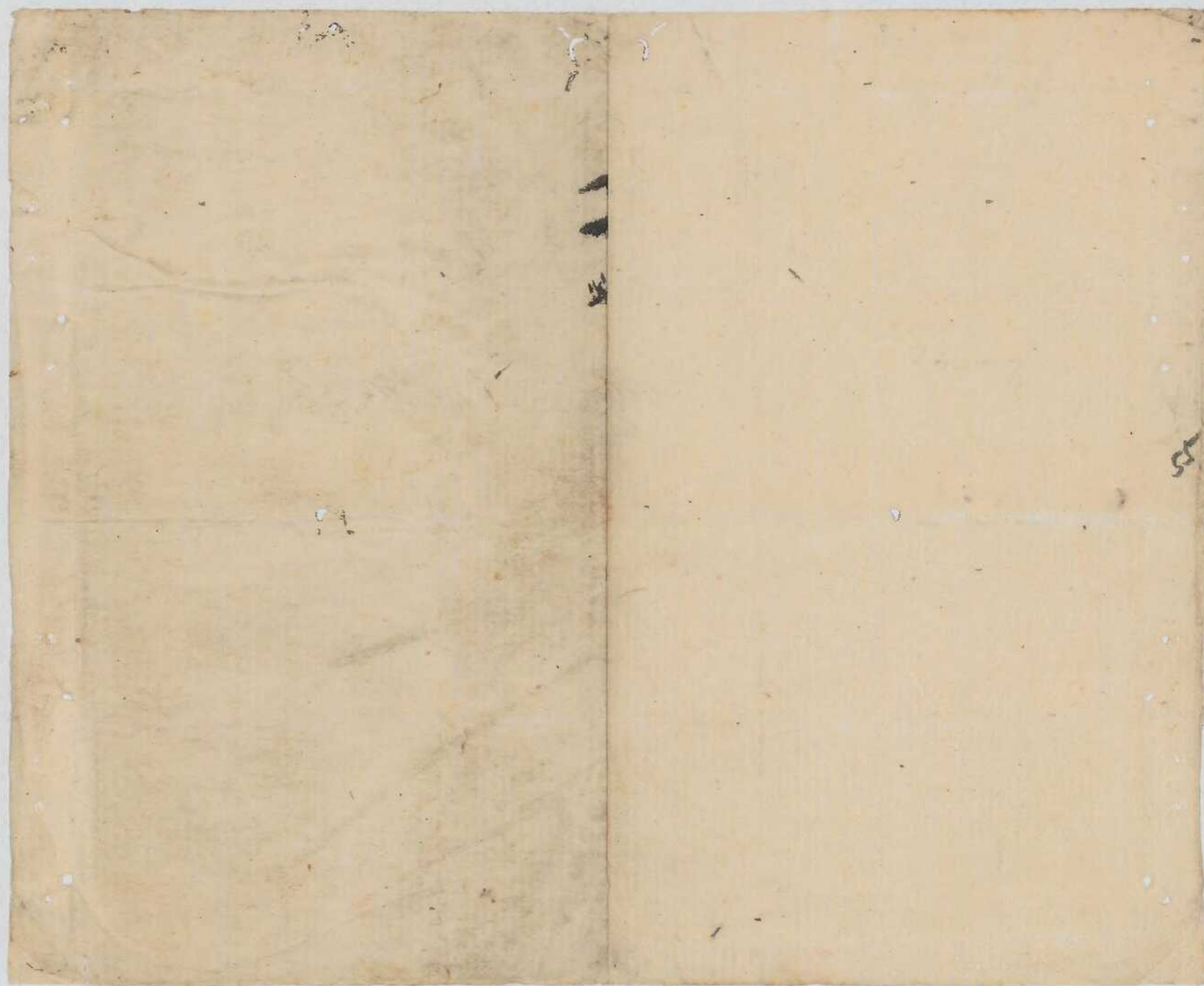
花回更也

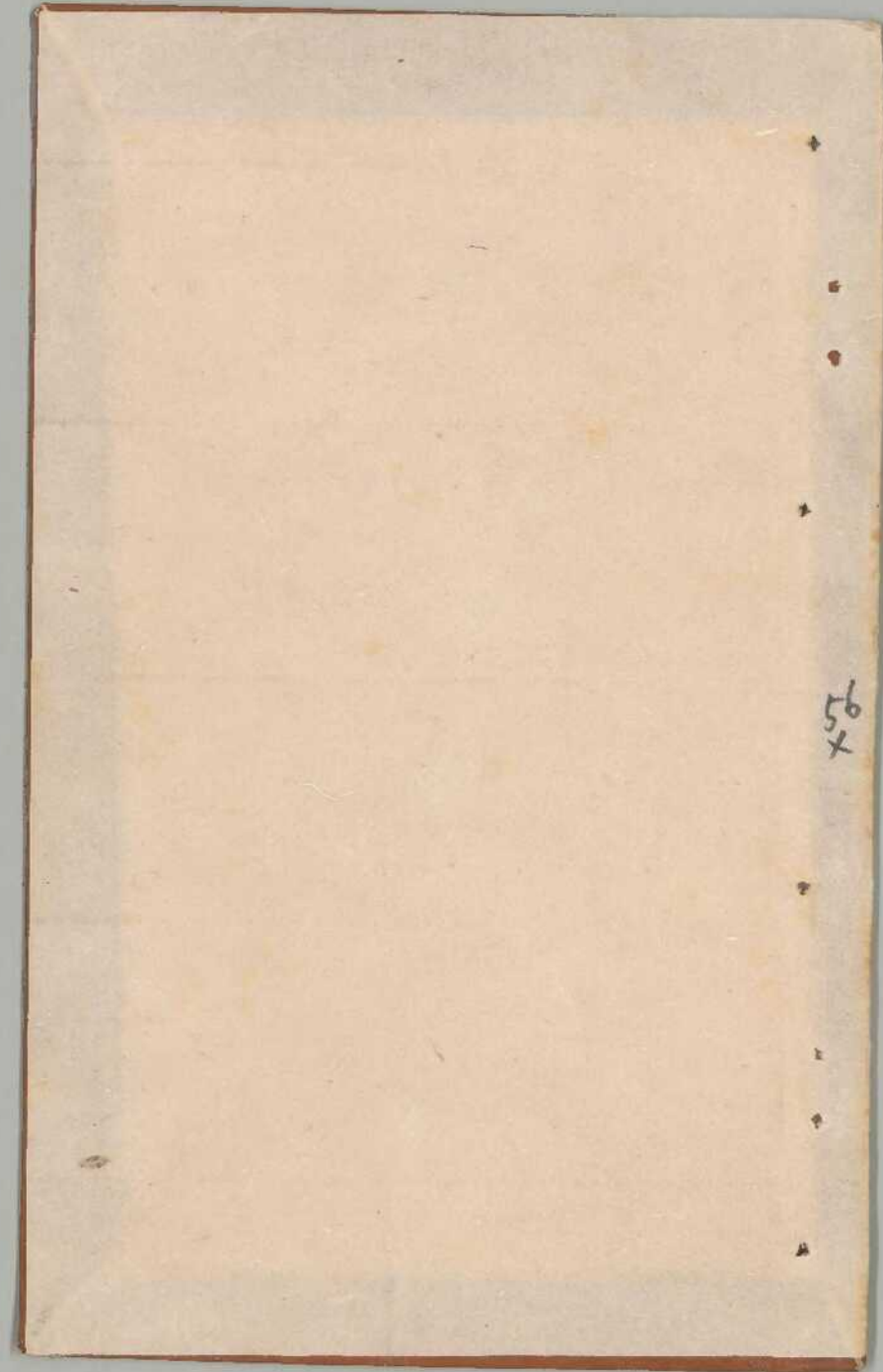
一 一
 一 一
 一 一
 一 一
 一 一

二ノノリヨリヨリヨリ
ヨリヨリヨリヨリ

御取之旨書之

54





56
x

